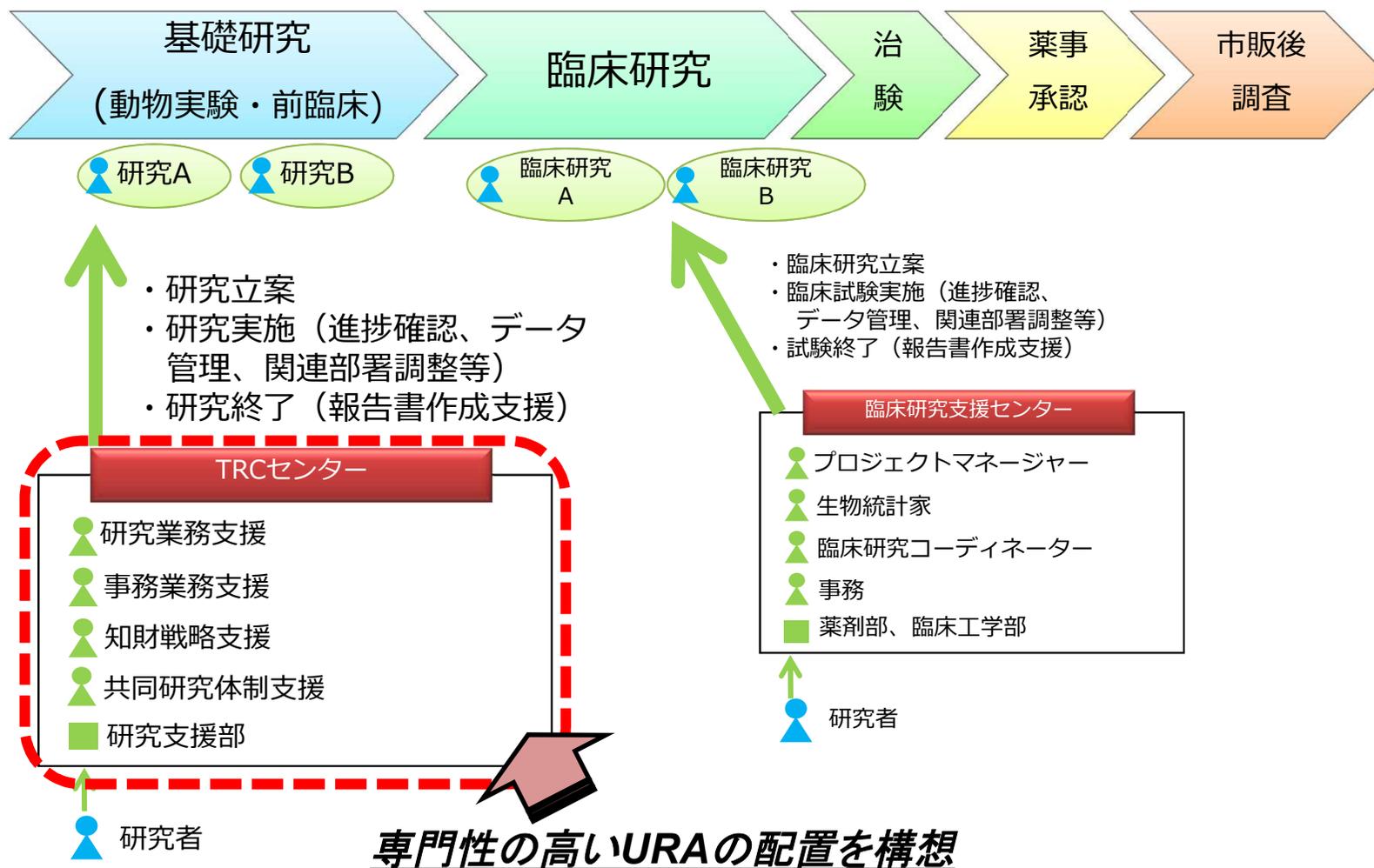

東京女子医科大学： URA事業の成果報告について (事業タイプ: 専門分野強化)

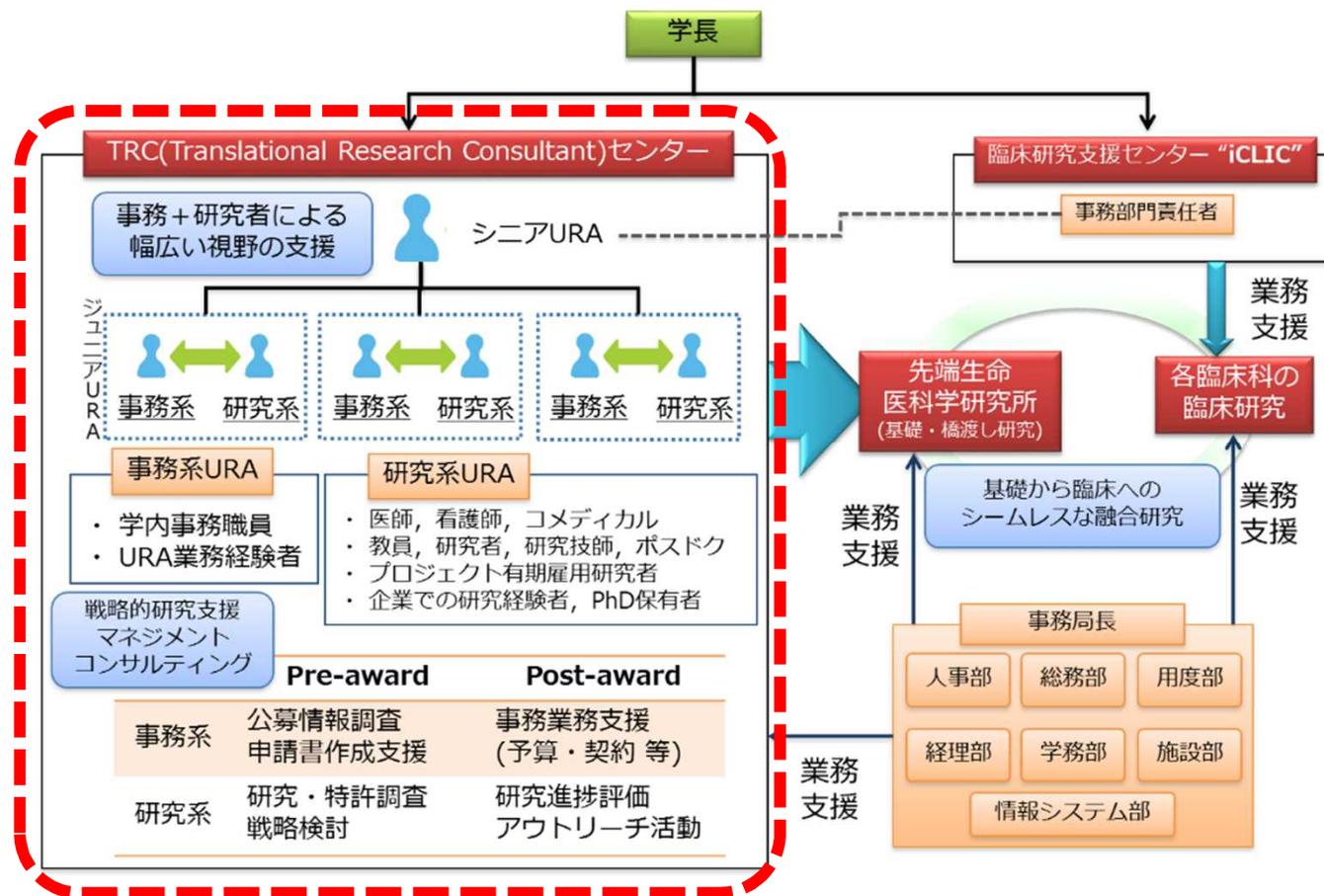
東京女子医科大学

文部科学省「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」(リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備)
東京女子医科大学 URA 事業の成果報告について

専門分野強化として医科系大学の本学がURAの配置を必要とした背景及び構想 - TRCセンターの設置構想 - (1)

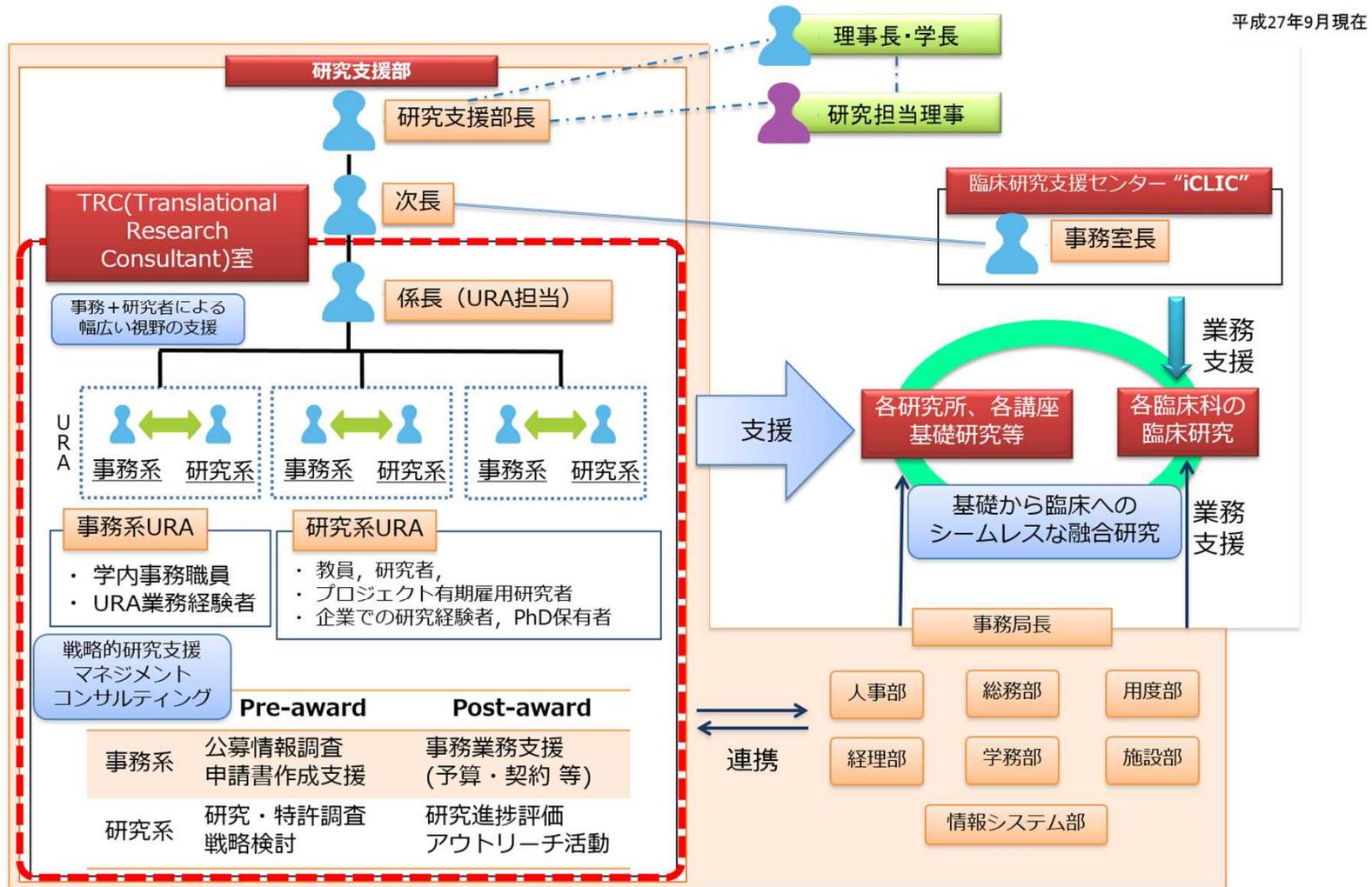


専門分野強化として医科系大学の本学がURAの配置を必要とした背景及び構想 - TRCセンターの設置構想 - (2)



事業開始当初のTRCセンター内での業務内容及びURA配置の構想

現在の本学におけるURA組織体制の整備状況 - TRC室の設置 -



文部科学省「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」(リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備)
東京女子医科大学 URA 事業の成果報告について

現在の本学におけるURAの配置の状況について

事業期間終了時
(平成27年3月31日)

URA 7名



現在
(平成27年9月時点)

URA 5名

平成27年4月

URA 2名 正職員採用

URA 1名 競争的資金におけるプロジェクト雇用

平成27年6月

URA 1名 競争的資金におけるプロジェクト雇用
(部局配置)

平成27年9月

URA 1名 競争的資金におけるプロジェクト雇用

文部科学省「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」(リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備)

東京女子医科大学 URA 事業の成果報告について

事業期間中に展開した本学URAの活動概要（1）

Pre-Award業務：

- 研究動向、政策動向、産業動向の調査
- 競争的資金に係る情報収集と学内提供
- 引用文献DBなどを用いた学内シーズ情報の調査
- 分野横断的プロジェクト等の組織支援/調整
- 競争的資金獲得支援
- 共同研究・受託研究契約業務支援
- 臨床研究の受託研究契約業務支援
- メディカルライティング、申請書作成支援
- 学内外ネットワーク等を通じた学内及び他機関との連携/交流の企画/調整
- 産学連携/知財/倫理審査対応に係る専門的助言
- 大学の研究戦略策定に関する業務
- 倫理委員会申請支援
- 治験実施計画書、臨床研究計画書作成支援

事業期間中に展開した本学URAの活動概要（2）

Post-Award業務：

- 研究プロジェクトの進捗管理・資金管理支援
- 成果報告書/実績報告書作成支援
- 監査対応支援
- 研究倫理・コンプライアンス対応支援
- 知的財産等の管理・活用支援
- 広報/アウトリーチ活動

その他：

- 学内施設移転計画に係る機器・設備関連のデータ収集/分析
- URA研修・教育プログラム（主幹校：早稲田大学）作成協力
- その他、情報収集（他大学URA関連研究会/シンポジウム等参加、国内外の研究者、URA及び類似職との意見交換等）

本学URA標準業務の策定

東京大学「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備（スキル標準の作成）」事業の動向に留意しつつ、URAの能力開発プログラムを策定

Pre-Award標準業務：

- ①研究動向・産業動向分析
- ②競争的資金に係る情報収集と学内提供
- ③学内シーズ情報の収集と分野横断的プロジェクト等の組織支援・調整
- ④共同研究・受託研究契約業務支援
- ⑤臨床研究の受託研究費獲得支援
- ⑥メディカルライティング・申請書作成支援
- ⑦競争的資金獲得支援
- ⑧学内外ネットワーク等を通じた大学内及び他機関との連携・交流の企画・調整
- ⑨産学連携・知財/倫理審査対応に係る専門的助言

Post-Award標準業務：

- ①研究プロジェクトの進捗管理・資金管理支援
- ②成果報告書/実績報告書作成支援
- ③広報・アウトリーチ活動
- ④知的財産等の管理・活用支援
- ⑤監査対応支援
- ⑥研究倫理・コンプライアンス対応支援

文部科学省「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」(リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備)

東京女子医科大学 URA 事業の成果報告について

本学URA事業独自の業務達成目標に係る自己申告書を実施

各URAにとっての

- この1年間で担当した業務の難易度、遂行度等」
- URA事業への理解度
- URAの研究支援業務とは
- 今後取り組みたい業務・企画と行動計画
 - • •等の項目によって構成。

URA業務の評価の一助として活用した。

自己申告書 (URA)

氏名: _____ 所属: _____ 職員番号: _____ 入職年月: 年 月

< 現行業務に関して >

この1年間で担当した業務の難易度・遂行度等

業務①					
項目・基準	A	B	C	D	評価
難易度	難しい	やや難しい	普通	やや易しい	
遂行度	非常に良くやったと思う	良くやったと思う	普通	やや足りない	
適性	最適である	ほぼ適している	普通	やや不適	

< 課題及び意見等 >

業務②

項目・基準	A	B	C	D	評価
難易度	難しい	やや難しい	普通	やや易しい	
遂行度	非常に良くやったと思う	良くやったと思う	普通	やや足りない	
適性	最適である	ほぼ適している	普通	やや不適	

< 課題及び意見等 >

< URAの研究支援業務とは >

URAの研究支援業務について、ご自身の理想をお書きください。(字数制限なし)

< 今後取り組みたい業務・企画と行動計画 >

次の1年でURAとして取り組みたい新しい業務・企画等について、その行動計画についてお書きください。

業務①	
目標	
< 行動計画 >	

業務②	
目標	
< 行動計画 >	

< 備考 >

情報発信の取り組みについて

本学URA事業専用のウェブサイト作成。大学トップページからリンクされる形で公開。

URAという新規性に富む高度な専門職人材を学内外に印象付けるべく、デザインの工夫についての協議を重ねて実現。

URA専用の問い合わせ窓口：一方向的な情報発信にとどまることなく、双方向的なコミュニケーションも可能となっている。

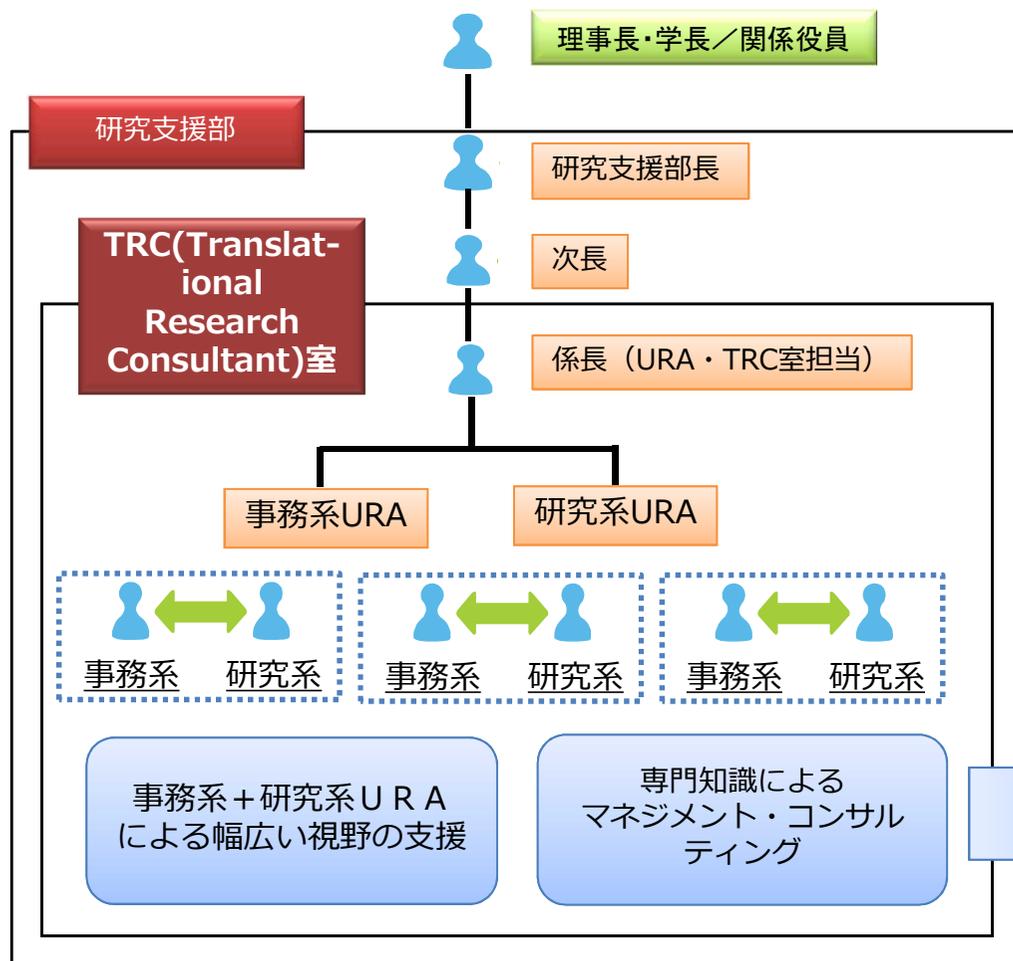


文部科学省「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」(リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備)
東京女子医科大学 URA 事業の成果報告について

URA組織体制の学内認知を高める活動について

- 2013年7月～11月 本学研究施設の移転計画への貢献：
研究系URAが各病院診療科の研究室を訪問。研究者らに研究環境に係る要望等のヒアリングを含む実態調査を実施の上、詳細なデータを作成。これらのデータは、本学総合研究所執行部が実施した研究施設移転計画に反映。
- 2013年10月 科研費応募支援セミナー開催：
岡野光夫（副学長）と岡本和久氏（文部科学省研究振興局）によるご講演を設定。
- 2013年10月 科研費応募支援URAオリジナル教材作成配布：
「科研費申請書 書き方のコツとピットフォール」を作成の上、学内イントラネットで配布。
- 2013年& 2014年10月 学内研究者の科研費申請書作成支援実施：
研究目的・意義、方法論、倫理・コンプライアンス対応、研究経費・エフォート、業績等に関する助言及び添削を行うことで、専門性の高いレベルでのコンサルティングが実現。
- 2013年10月 本学病院の臨床研究支援センターセミナー協力：
URAによる倫理・コンプライアンスに関するレクチャーを実施。
- 2014年& 2015年1月 学内研究交流セミナー開催：
本学の研究者同士の交流の促進、URAと研究者とのコミュニケーションの活性化に寄与。
- 2014年2月 知財セミナー企画・開催：
飯野顕（産学連携コーディネーター）による大学・企業の研究開発・特許出願に関する講演を設定。

URAシステム整備(改革)に対する責務に係る学長・関係役員が主体となった取組状況



＜学長・関係役員が取組の成果＞

- 研究系URA2名を正職員にすることを達成
- 加えて、研究系URA2名の雇用枠を確保し、研究支援体制を強化
- 事務系URAと研究系URAの連携により、質の高い研究支援が提供できる環境整備
- 本学の研究の中核となっているインテリジェント手術システムや細胞シート工学の実用化達成に必要な研究支援体制を構築



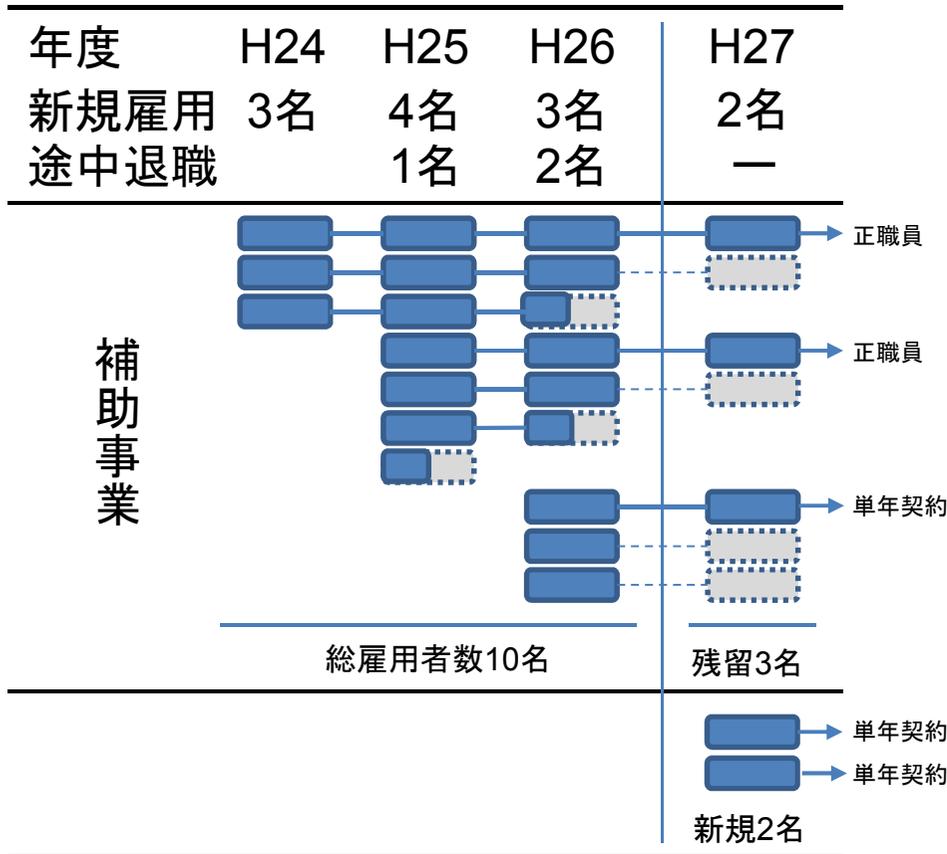
教員・研究者

基礎から臨床へのシームレスな融合研究

事業実施により明らかになった諸課題

— URAの雇用契約の条件 —

配置したURAの雇用の継続性



URA雇用における 単年契約と複数年契約の長所短所

単年契約

長所 不適格者の雇用止め

短所 不安定であること
・優秀な人材が学外へ流出
・優秀な人材の確保が困難

複数年契約

長所 比較的安定であること
・優秀な人材の期間内での確保
・継続的な研究支援が可能

短所 不適格者の雇用の継続維持

➡ 任期付き雇用から正職員へと雇用する“URA版テニュアトラック制度”を考慮中

文部科学省「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」(リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備)

東京女子医科大学 URA 事業の成果報告について